

国交省、車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方についての最終報告書を公表

OBD 検査制度の枠組みが示される

国土交通省は3月13日、車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方についての最終報告書を公表しました。これは、2017年12月から2019年1月まで8回にわたって開催してきた、車載式故障診断装置を活用した自動車検査手法のあり方検討会での審議内容をとりまとめたものです。同報告書で示された、OBD検査制度の枠組みについて紹介します。

■OBD検査の対象とする自動車

- ①型式指定自動車または多仕様自動車^{*1 2}
- ②乗用車、バス、トラック
- ③2021年（輸入自動車は2022年）以降の新型車^{*3}

■OBD検査の対象とする装置

対象自動車に搭載される以下の装置がOBD検査の対象となります。ただし以下の装置であっても保安基準に性能要件が規定されていないものは、当該要件が規定されるまではOBD検査の対象とされません。

- ①排出ガス等発散防止装置
- ②運転支援技術
- ③自動運転技術

このほか、上記装置へのOBD検査の導入状況及び現行の車検手法の効果を見極めた上で、将来、車線逸脱警報装置、オートライトシステムなどについてもOBD検査の対象とする可能性があります。

■OBD検査の開始時期

- ・2024年（輸入車は2025年）以降

■特定DTCの定義

OBD検査においては「特定DTC^{*4}」が検出された車両を不合格とします。「特定

DTC」とは、自動車メーカーが設定するDTCのうち、以下のすべてに該当するものをいいます。

- (1) OBD検査の対象自動車の対象装置について、保安基準に定める性能要件を満たさなくなる『故障』の存在を推断できるDTCとして自動車メーカーが定めるもの。
- (2) 安全関係のOBDについては、エンジン・アイドリング（電動車は走行可能状態）の停車状態で、OBDのみにより(1)の『故障』の存在を推断できるDTCとして自動車メーカーが定めるもの。
- (3) 環境関係のOBDについては、細目告示において警告灯の点灯が義務付けられている『故障』にかかわるDTCであること。なお車検時には、特定DTCがなく、かつレディネスコードが1つ以上存在することをもって合格とする。

■OBD検査の流れ

【検査開始前の準備】

法定スキャンツールに最新のアプリをインストールし、インターネット環境が確保された状態で、VCI^{*5}を検査車両に接続しておく。

【判定手順】

- ①アプリのバージョン確認
- ②検査車両情報の送信・「ECU^{*6}情報」の受信

検査車両情報をインターネットを通じて

機構サーバーへ送信し、検査車両からDTCを読み出すのに必要な「ECU情報」（特定DTCが格納されるECU番号、DTCを読み出すための通信プロトコル等）を機構サーバーへ照会する。

③車両からのDTCの読み出し

機構サーバーから得られた「ECU情報」に基づき、検査車両の「特定DTC」が格納されるECUのみに通信し、そのOBDに記録されているすべてのDTCを読み出す。

④「特定DTC」該当性の判定

読み出したDTCデータを、インターネットを通じて機構サーバーへ送信。機構サーバーはこれらを「特定DTC」情報に照合して合否判定を行い、結果をアプリへ通知。

⑤結果表示

アプリに合否判定結果を表示。判定結果は機構サーバーにも自動記録される。

今後は、検討会参加メンバーを中心としたフォローアップ会議を開催し、実際の運用開始に向けた情報共有や課題解決策について議論していく方針です。

自動車技術の高度化を受けて、法制度等も大きく変化しようとしています。整備・修理工場においては、自動車業界全体の動向を捉え、先を見据えた計画を構築することが、今後ますます重要となりそうです。

^{*1} 「多仕様自動車」とは共通構造部型式指定を受けた共通構造部を含む自動車（トラック、バスなど）。

^{*2} これらの自動車をベースに改造された自動車（タクシー等）も含む。

^{*3} 「新型車」とはいわゆるフルモデルチェンジを想定。

^{*4} DTC：Diagnostic Trouble Code. 故障コード。

^{*5} VCI：Vehicle Communication Interface. 自動車診断用インターフェース。

^{*6} ECU：Electronic Control Unit. 電子制御装置。

工場ルポ

大央自動車株式会社

代表者：東公亮社長
所在地：京都府京都市南区久世大藪町 234-9

宇野紀史店長に、工場の取り組みについてお伺いしました。

・工場の概要を教えてください

1992年に現会長の東将之が、中古車販売業として開業しました。その後2002年に钣金塗装事業、2011年に整備事業を開始し、事業を拡大させてきました。2013年に東公亮が社長に就任し、2016年に現在の場所に移転しました。

スタッフは会長、社長、钣金2人、塗装2人、整備1人、保険1人、経理1人、事務1人、営業2人の計12人です。月間平均入庫台数は車検整備が100台、钣金塗装が50台となっています。

・NGPリサイクルパーツの活用方法は？

钣金や車検・一般修理のお客様の負担を少しでも軽減させるために、率先して

リサイクルパーツを紹介しています。紹介する側としても品質保証がしっかりしていますので、安心してお勧めできています。

・工場の今後の課題や取り組み、展望などを聞かせてください

先日、環境保全や従業員の健康などを考慮して、水性塗料を導入しました。今

後も従業員や環境への配慮には力を入れていきたいと思っています。

また昨年、カーライフをフォローし顧客満足度を向上させるため、新たに洗車事業を立ち上げました。今後もお客様から安心して車を預けてもらえる工場を目指していきます。



宇野紀史店長



株式会社美加ノ原钣金塗装

代表者：小寺規之社長
所在地：京都府木津川市加茂町井平尾北置堤8-1

小寺規之社長に工場の取り組みについてお伺いしました。

・工場の概要を教えてください

1973年に現会長が钣金塗装専門工場として開業しました。私は京都のディーラーで整備を経験したのち、1997年に当社へ入社しました。社長に就任したのは2014年です。現在のスタッフは会長、私、钣金2人、塗装1人、整備1人、納車引き取り1人の7人です。月間の平均入庫台数は120台で、内訳は钣金7割、車検整備3割です。40年以上事業を営んでいることもあり、钣金では直需のお客様が7割を占めています。

・NGPリサイクルパーツの活用方法は？

自動車保険制度の改定により自費修理が増えていますので、少しでもお客様の

負担を軽減するために活用しています。また、昨年9月の台風21号で被害を受けた車が現在も入庫しており、そのようなお客様にも率先して提案しています。

・工場の今後の課題や取り組み、展望などを聞かせてください

輸入車の入庫が多いため、カーメーカーが指定する水性塗料を使用しています。

今後は進化していく車に合わせてエーミング作業などに対応できるように、準備を進めていく予定です。また、各種研修会にも積極的に参加し、直せない車がないように努力していきたいと思います。



小寺規之社長



次世代自動車の技術動向や自動車社会の変化に対応した整備・修理工場の姿を提案

自動車アフターマーケットに関する幅広い情報の発信を目的とした、第17回国際オートアフターマーケットEXPO2019が3月13～15日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。

296社・団体（前回276社・団体）の出展者が集まった各展示ブースでは、コーティング剤やプロテクションフィルムなどのディテリング関連製品のほか、塗料やボデー修正装置などの自動車補修関連設備機器、スキャンツールなどの診断装置、先進安全装置の調整用機器まで、自動車アフターマーケットに関する各種設備機器が紹介されました。来場者数は3日間合計で34,129人（前回37,276人）に上っています。

会場内5カ所に設けられたセミナー会場では、自動車に関する様々なテーマについて講演やディスカッションが展開されました。そのなかで国土交通省は車検証の電子化による効果や自動車技術の進化に応じた整備・検査の高度化について、経済産業省は自動車産業の今後の方向性やコネクテッドカー社会の到来によるアフターマーケットの変化などについて解説しています。さらに自動車技術及びサービスの变化による影響、今後の対応策などについて関連する企業・団体が講演しました。

会場内に設置された塗装実演コーナーでは、出展した塗料メーカー各社が、自動車補修用塗料を用いた塗装を実演しました。各社はプラサフ、ベースコート、クリヤーのすべてに水性塗料を用いたオール水性システムや、乾燥時間を低減させたプラサフなど環境対応や作業効率改善につながる製品を紹介しています。

また3月15日には自動車の修理・整備・販売などに携わる事業者を対象とした、「第3回店舗イベントグランプリ」が開催されました。同大会は定期的に独自イベントを開催する事業者が、実績に関する事例を交えながらプレゼンテーションを行い、聴講者からの投票で最優秀賞及び優秀賞を決めるイベントです。費用対効果、オリジナリティ（独創性）、地域貢献の3つの観点で審査され、投票の結果(株)郷田飯金（長野県岡谷市）が最優秀賞に選ばれています。

セミナー会場では、様々なテーマについて講演やディスカッションを展開。

あいおいニッセイ同和損害調査(株)取締役の石川明男氏、(株)ブリッジ代表取締役の藤田隆之氏、ボッシュ(株)オートモティブアフターマーケット事業部テクニカルサービス&サポート部ゼネラルマネージャーの里藤太郎氏は、搭載車両が増加しているイベントデータレコーダー（EDR）の機能及びその活用方法などについて解説した。

自動車整備業を営む藤田氏は、EDRのデータを読み出すことができるCDR（ボッシュ社製）を使用してデータの解析を行うため、ボッシュ社の認定資格であるCDRアナリストを取得。同氏は今後、事故で入庫した車両の損傷診断の正確性向上及び効率化につな

げていく考えを示し、自動車整備・修理工場がEDRのデータ解析に対応することの意味を説明した。



塗装ブースが設置された塗装実演コーナーでは、出展した塗料メーカーが塗装を実演した。

アクサルタは水性塗料クロマックスプロを用いて、ゴールド調のメタリックを塗装。下地には日本導入前のプラサフを使用し、プラサフ塗布後20℃×6分のフラッシュオフタイムでベースコートの塗装が可能な作業性をPRした。

イサム塗料は水性塗料アクアスドライと開発中の水性プラサフ、水性クリヤーを用いた、オール水性の塗装システムを紹介。同システムを用いて、シルバーメタリックを塗装した。

関西ペイントはプラサフ〜クリヤーまで水性化したオール有機フリーシステムを用いて、シルバーメタリックのボカシ塗装を実演。さらにタッチアップ塗装も実演し、ゴミ取り作業性の良さを示した。

日本ペイントはプラサフ〜クリヤーまで水性化した

naxE³WB水性システムで、黒・ソリッドカラーのブロック塗装を実演。実演後は溶剤系塗料を塗布したパネルと並べ、その品質を示した。



展示ブースには、自動車アフターマーケットに関連する事業を主体とした企業のほか、アマゾンジャパンやGMOクラウドなど、ネット通販やIT事業を主体として多様な事業を展開する企業も出展し、自動車整備・修理工場へ向けてサービスを提案した。

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成31年2月: **2,532t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成31年2月: **2.0t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP組合員 かわら版

自動車業界紙誌記者と懇談会を開催

業界内外へ向けた情報発信への協力を呼びかける

NGP協同組合は3月19日にシナガワグース（東京都港区）で、自動車業界紙誌記者との懇談会を開催しました。

挨拶に立った佐藤幸雄理事長は「一般のカーユーザーが使用済み自動車を持ち込む入口を整理することが私たちの役割と考えており、今期NGPは廃車王事業の強化に取り組んで参ります」と今期の方針を示すとともに、業界内外へ向けた情報発信への協力を呼びかけています。

杉之間大和総務広報委員長からは、今後の施策が発表されました。

まず車両仕入れの強化に向けた施策と

して、廃車買い取りサービス「廃車王」のPRを目的とした全国規模のテレビCMの放送を5月4～31日に実施します。廃車王の昨年9月から今年2月までの実績を見ると、コールセンターへの問い合わせ件数が前年同期間比195%、成約件数が同168%、成約率は同+6%となっており、これまでCMを放映してきた成果が確実に現れています。今後もCMを通じて、車両の仕入れ強化及び業界認知度向上を図っていきます。

さらに、お客様に感謝の気持ちを伝えたいという思いから開始した、宝くじキ



挨拶する佐藤幸雄理事長

ャンペーンの第5弾となる『「夢」か「現実」か!?春の選べるダブルキャンペーン2019』の開催が発表されました。

NGPは今後も各種取り組みを通じて、お客様に選ばれるブランド作りに努めて参ります。

「NGP春の選べるダブルキャンペーン」開催!!

今回は、サマージャンボ宝くじまたはAmazonギフト券から
ご希望の賞品を選べます!!

皆様から大変なご好評をいただいております「NGPキャンペーン」の第5弾となる「NGP春の選べるダブルキャンペーン」を、4月1日～6月30日までの3ヵ月間開催致します。

今回はギャランティシール3枚を1口として応募していただく際に、A賞「サマージャンボ宝くじ」かB賞「Amazonギフト券」のいずれかをお選びいただくことができます。そして当選時には、その選択した賞品をプレゼント致します。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト (<http://www.ngp.gr.jp/>) からダウンロードすることも可能です。

なお、ギャランティシールの下側に付いているベルマークは、必ず切り離してからご応募下さい。切り離れたベルマークは近隣の学校にご提供いただき、地域社会への貢献にご活用いただければ大変嬉しく思います。

お一人様何口でもご応募いただけます。

宝くじという「夢」を選ぶか、Amazonギフト券という「現実」をとるか。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。



プレゼント内容

1等 サマージャンボ宝くじ 500 枚 または Amazonギフト券 150,000円分 1名
2等 サマージャンボ宝くじ 100 枚 または Amazonギフト券 30,000円分 3名
3等 サマージャンボ宝くじ 10 枚 または Amazonギフト券 3,000円分 246名

■NGPニュースNo.335
(2019年2月号) プレゼント
クイズの正解はダイハツのトール
でした。栃木県、富山県、兵
庫県在住の方3名様に1万円相
当のクオカードをお送りします。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東北	有限会社カンジ自動車商会	会社代表	代表取締役 官野 哲雄	31年3月13日
南関東	株式会社ユアアンドアイ	会社名 会社代表	日産プリンス神奈川販売株式会社 カスタマーサービス部 リサイクル事業室 代表取締役 山田 裕	31年4月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>